

クロアチア情勢

主な出来事

2017年4月

内政

- 3日、野党第1党社会民主党(SDP)及び同第2党人民党(HNS)は、次期統一地方選挙(本年5月21日予定)において、ザグレブ市選挙戦の連立合意を締結。SDPは、ザグレブ市長選に出馬するHNS所属のムラク=タリタシュ候補(元建設・都市計画相)への支持を表明。
- 6日、議会は、賛成多数(賛成83, 反対46, 棄権2)で「重要企業に対する緊急管財措置等に関する法案」(いわゆる「アグロコル法」)を採択。
- 6日、グラバル=キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相は、大統領府において、国防会議を開催。
- 6日、政府は、2016-2020年の人口政策プログラムの監督・調整を行う「人口再生評議会」を発足。
- 7日、EU規則に基づく出入国審査の厳格化が同日施行されたことに伴い、クロアチア全土の国境検問所において、EU・非EU国民に拘わらず、全ての個人に対し、クロアチア警察及びインターポールのデータベースを利用して照合する検問が義務化。しかし、8日、各検問所で混雑が発生したことから、政府は同制度の適用を一時停止する措置を発表。
- 7日、ザグレブ県裁判所は、サナデル元首相(元クロアチア民主同盟(HDZ)党首)に対し、「プランスカ事件(注)」の容疑を認め、懲役4年6か月の第1審有罪判決を決定。(但し、5年以下の懲役の場合、最終審判決が決定されるまで収監されることはない。)
(注:2009年、サナデル首相(当時)は、プランスカ通りにあるビル購入をチョバンコビッチ地域開発相(当時)に指示し、同ビルは実勢価格よりも高額な値段で取引された。後に、同ビルの所有者がサナデル元首相に近いHDZ所属の議会議員(当時)であると判明し、上乗せされた金額及び賄賂がサナデル元首相に渡ったとされる事件。)
- 10日、ザグレブ商業裁判所は、アグロコル社(当国大手食品関連企業)から「アグロコル法」に基づく危機管理手続の要請(4月7日提出)を受け、同社の管財責任者に政府が選任したラムリャク(Mr. Ante Ramljak)TEXO管理コンサルタント社共同経営者を任命。また13日、同裁判所は、アグロコル社の債権者代表で構成される臨時債権者評議会の委員5名を任命。
- 11日、プレンコビッチ首相は、「スラボニア、バラニャ及びスリエメに関する評議会」の第1回会合出席のため、オシエク(当国東部)を訪問。

- 11日、利益相反委員会は、ブイッチ中央銀行総裁に対し、2013～2015年に同総裁がオーストリアで開催された Uni Credit 銀行主催会合に参加した際、同行から旅費・滞在費の一部を不法に受け取っていたとして、5,000クーナ(約675ユーロ)の罰金を決定。
- 13日、政府は、閣議において、次期統一地方選挙を本年5月21日に実施する旨決定。同決定は4月20日付で発効。
- 18日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、ラムリヤク・アグロコル社管財責任者と会談。
- 20日、SDPを中心とする野党議員46名は、マリッチ財相に対する不信任決議案を議会に提出。
- 22日、「反ファシスト闘争者と反ファシスト連盟(SABA)」及びセルビア民族評議会(SNV)は、ヤセノバツ強制収容所跡(当国東部)において、犠牲者追悼式典を共催。プポバツ議員(セルビア系代表, SNV会長), ハブリンSABA会長, ベルナルディッチSDP党首, 元収容者, 外交団他が出席。
- 23日、ヤセノバツ強制収容所跡において、ヤセノバツ強制収容所記念館が主催(議会後援)する公式の犠牲者追悼式典開催。プレンコビッチ首相, シュティール副首相兼外務・欧州問題相, オブリエン＝コルジネク文化相, バリシッチ科学・教育相, クウンジッチ保健相, キリニッチ大統領府長官(大統領特使), スラドリエフ議員(議会議長特使), シュンドフ・クロアチア軍参謀総長, バンディッチ・ザグレブ市長, カイタジ議員(ロマ系代表), 外交団等が出席。
- 24日、クロアチア・ユダヤ人コミュニティは、ヤセノバツ強制収容所跡において、ホロコースト記念日式典を開催。
- 27日、プレンコビッチ首相は、マリッチ外相に対する不信任決議案への対応を巡り、閣議において、MOST所属の3閣僚(内相, 司法相, 環境保護・エネルギー相)の解任を決定。28日、MOST所属のこれら3閣僚及び副首相兼行政相の全4閣僚からの辞任表明を受け、政府は電話閣議を開催し、4閣僚に加えてMOSTが選任した各省副大臣全員を解任する旨決定。
- 27日、政府は、2017年の国家改革プログラム及び2017－2020年の収斂プログラムを採択。
- 28日、HDZを含む与野党議員79名は、ペトロフ議会議長(MOST代表)に対する不信任決議案を議会に提出。

外交

- 3－5日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、3日間の日程でアイルランドを国賓訪問。同地において、ヒギンス同国大統領, ケニー首相らと会談。
- 3－4日、プレンコビッチ首相は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)で開催された2017年モスタル市国際経済見本市に参加のため、モスタルを訪問。今次訪問に際し、ブチッチ・セルビア首相と非公式会談を実施(3日)。
- 4日、議会において、クロアチアのNATO加盟8周年記念式典開催。ペトロフ議会議長は、当国訪問中のアリNATO議会会議(NATO Parliamentary assembly)議長と会談。

- 4日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、前3日に発生したサンクトペテルブルク市内の地下鉄爆破に関し、プーチン露大統領に弔意を表明。
- 6－7日、当国訪問中のボシュコビッチ・モンテネグロ国防相は、グラバル＝キタロビッチ大統領(6日)及びクルスティッチェビッチ副首相兼国防相(7日)とそれぞれ会談。
- 7日、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相は、同日スウェーデンのストックホルムで発生したトラック突入事件に関し、それぞれカール16世グスタフ・スウェーデン国王及びロヴェーン同国首相に対し、弔意を表明。
- 9日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、オパティヤ(当国西部)において、当国訪問中のマケイン米国上院議員(共和党・上院軍事委員長)と会談。また、プレンコビッチ首相及びシュティール副首相兼外務・欧州問題相は、同議員とドゥブロブニク(当国南部)にて会談。
- 10日、プレンコビッチ首相兼HDZ党首は、HDZ党本部において、当国訪問中の張春賢(ZHANG Chunxian)中国共産党中央政治局委員と会談。
- 11日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、パホル・スロベニア大統領と共に、2週間に亘りプレマントウラ軍事演習場(当国西部)で実施されていたクロアチア・スロベニア合同軍事演習(Shield 17)の最終日を視察。
- 12日、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相は、当国訪問中のアーデル・ハンガリー大統領とそれぞれ会談。
- 12日、シュティール副首相兼外務・欧州問題相は、ポーランドのワルシャワで開催されたV4(ポーランド、チェコ、スロバキア及びハンガリー)及び東方パートナーシップ国との会談に出席。
- 13日、シュティール副首相兼外務・欧州問題相は、プーラ(当国西部)において、アルファーノ伊外相と会談。
- 17－18日、ダリッチ副首相兼経済・中小企業相は、パリを訪問し、グリア経済協力開発機構(OECD)事務総長と会談(17日)。本年1月にプレンコビッチ首相が発出したOECD加盟に関する意図表明書に沿って、クロアチアのOECDへの加盟希望を伝達。
- 18日、政府は、今月12日にスイス連邦裁判所から国連国際商取引法委員会(UNCITRAL)裁定(2016年12月)の発効延期を否認する判決があった旨発表。他方、同裁定の「無効申立て」(注)に対する判決は、現時点で「保留(pending)」されているとの見解を主張した。(注:クロアチア政府は、MOL社(ハンガリーの石油会社)によるクロアチア石油公社(INA)株式・経営権等取得等の問題を巡ってUNCITRALに仲裁を申し立てていたが、昨(2016)年12月23日、同仲裁廷は、本件事案に対するクロアチア側の主張を構成する証拠は不十分であるとの裁定を下した。その後、本年2月1日、クロアチア政府は同裁定を不服とし、スイス連邦裁判所に対し、その無効申立てを行った旨発表していた。)
- 19日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、EU規則に則った出入国審査の厳格化に起因するクロアチア・スロベニア国境における混雑状況に鑑み、EU各首脳(トウスク欧州理事会議長、ユンカー欧州委員長、タイヤーニ欧州議会議長)宛書簡を発出し、本件問題解決を要請。
- 21日、グラバル＝キタロビッチ大統領、プレンコビッチ首相、ペトロフ議会議長、シュティール副首相兼外務・欧州問題相は、当国訪問中のリンケビチュウス・リトアニア外相とそれぞれ会談。

- 22－23日、グラバル＝キタロビッチ大統領は、カタールを訪問し、アブドゥラー同国首相(22日)及びタミム・ビン・ハマド・アール・サーニ首長(23日)と会談。
- 24日、プレンコビッチ首相は、当国訪問中の周強(ZHOU Qiang)中国最高人民法院院長と会談(フルバティン最高裁判所長官及びシュプルリエ司法相同席)。
- 25日、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相は、当国を公式訪問したロイタード・スイス大統領とそれぞれ会談。
- 26日、プレンコビッチ首相は、当国訪問中のアリーン・スウェーデン国会議長と会談。27日、同国会議長は、ペトロフ議会議長と会談。
- 27日、プレンコビッチ首相は、当国訪問中のクレツ欧州委員会地域政策担当委員と会談。
- 28－29日、プレンコビッチ首相は、特別欧州理事会出席のためブリュッセル訪問。同地において、トゥスク欧州理事会議長と会談し、夏の観光シーズンが始まる前にEU国境における出入国審査に関するコンセンサスをまとめることを要請(28日)。また、ユンカー欧州委員会委員長及びツェラル・スロベニア首相との間で、クロアチア・スロベニア国境検問所における出入国審査を体系的審査(systematic checks)から対象を限定した審査(targeted checks)に変更することを合意(29日)。
- 29日、シュティール副首相兼外務・欧州問題相は、マルタで開催された非公式EU外相会合に出席。

経済

- 5日、信用格付企業S&Pは、アグロコル社が主要債権者と債務返済を凍結するに至ったことを受け、同社の格付けを引下げ(B-/BからCC(債務不履行となる蓋然性は現時点で非常に高い))。
- 13日、ラムリャク・アグロコル社管財責任者は、クロアチア国内の4つの銀行が返済期間15カ月で利子率4.97%の80万ユーロの新規融資の合意書に署名した旨発表。
- 24日、クロアチア統計局は、2016年の財政赤字(対GDP比0.8%)及び公的債務残高(同84.2%)を公表(いずれもESA2010基準値)。それぞれ前年値(3.4%, 86.7%)より減少。
- 24日、ラムリャク・アグロコル社管財責任者は、アグロコル・グループの事業再建コンサルタントとしてAlix Partners 社(米系経済コンサルティング企業)を選定し、同社との契約に署名したことを発表。両社は今後12カ月に渡り協力して同グループの事業再建を進め、このための事業再建計画は、同グループの債務総額が判明すると見込まれている10月乃至11月までに策定される予定。
- 28日、世界銀行理事会は、クロアチアの道路セクターの近代化及び事業再編のために2200万ユーロを融資し、総額で3.5億ユーロとなる債務保証を供与することを承認した。

主要経済指標

主要経済指標(2017年月次データ, 対前年同期比(除く失業率), 政府統計局発表)

輸出総額 (2月)	輸入総額 (2月)	貿易赤字 (2月)	工業生産高 (3月)	インフレ率 (3月)	失業率(登録 制) (3月)
+20.6% (156 億クー ナ, 20.8 億ユーロ)	+10.7% (237 億クーナ, 31.4 億ユーロ)	+4.6% (80 億クーナ, 10.7 億ユーロ)	+0.0% (2月:2. 3%)	+1.1% (2月:1.4%)	14.4% (2月:15. 3%)

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。